

## 〔派遣団員〕

安田 大地	鹿児島商業高等学校
駒走 さやか	鹿児島玉龍高等学校
小田原 裕	鹿児島水産高等学校
大社 隆太郎	鹿児島水産高等学校
有村 綾香	串木野高等学校
平石 敬乃	串木野西中学校
有留 小百合	加治木高等学校
永家 賢人	川辺高等学校
蔵元 みえ	鳳凰高等学校
西野 栄梨花	川辺高等学校
渡辺 博人	岩川高等学校
大久保 彰子	鹿児島玉龍高等学校
友井川 美都	鳳凰高等学校
新原 夏帆	青戸中学校
14名	

## 〔同行者〕

弓場 秋信	県青年海外協力隊を支援する会事務局長
増田 彰一	鹿児島県国際交流協会総務企画課長
山下 美穂	青年海外協力隊OV
原 奈美	青年海外協力隊OV（JICA国際協力推進員）
政元 泰江	MBC南日本放送報道部記者
山本 輝志	南日本新聞社社会部記者



- 7/24 結団式（鹿児島空港）  
鹿児島空港発 ソウル経由 ハノイ空港着 **ホテル泊**
- 7/25 JICAベトナム事務所でのオリエンテーション  
ホアビン省モー2村へ移動  
ホストファミリーとの対面式 **ホームステイ**
- 7/26 ホストファミリーと農作業体験 **ホームステイ**
- 7/27 ベトナム国北部荒廃流域天然林回復計画概要説明、  
現場視察（ホアビン省ケー村） **ホームステイ**
- 7/28 ホアビン省保健局訪問  
ホアビン省保健医療サービス強化プロジェクト概要説明  
ホアビン省総合病院訪問  
ホアビン省の中学校との交流会  
モー2村の人たちと交流会 **ホームステイ**
- 7/29 ハノイへ移動
- 7/30 JICA関係者との懇談会 **ホテル泊**  
ハノイ市内観光  
ハノイ空港発 **機内泊**
- 7/31 ソウル経由 鹿児島空港着  
解団式



## 時間軸で見る真実と変化

### 渡辺博人（第14回ベトナム派遣）



青少年国際協力体験事業30回記念おめでとうございます。

私は当事業がきっかけで海外に興味を持ち、観光関連の専門学校を卒業後は15年間ベトナムで過ごしました。ベトナム人の「てげてげ」な国民性、ゆったりとした時間が流れるベトナム生活ではありましたが、社会主義国家でありながらドイモイ政策で経済が自由化されるという特殊な環境も持つ新興国の急激な成長を目の当たりにし、私自身大きな活力を得て現地で過ごしてきました。

学生の頃、学校の掲示板で当事業の案内を目にした時は、ベトナムで昔戦争があったという暗い歴史の印象しかありませんでしたが、現地に着いてみたら最初に思い描いていた暗い感じのベトナムではなく、沢山のバイクと人々の活気でした。

ホームステイ先の少数民族の村に到着した時は、初めて目にする高床式の家と村に数件のトイレに衝撃を受けました。ホームステイ先の子にお風呂はどこかと聞くと、すぐ近くの小川に連れて行かれ、さらなる衝撃を受けつつも水浴びをして、最初の1日目から滞在の1週間何が起きるのかワクワクしたのを覚えています。

体験事業の中で特に印象的だったのが、ホアビン省の病院に行った時に日本から寄付された医療機器が倉庫に置かれたまま使用されていないという話でした。話を聞くと寄付された機器を使用できる人材がないというのが一つの要因だったようです。当時のJICAの活動の様子や話を伺い、様々なプロジェクトを達成させるために必要な対策を講じる、活動の過程の大切さを学ぶ事ができました。この時の体験が、現在の生活の中でも最良の結果に導くためにどうすべきか考え、行動できる力に繋がっていると感じています。

今後事業に参加される学生の皆様にも、体験事業で訪れた場所がその後どのように変化しているのかを少しでも気にかけて継続して見て頂けると、最初に見えたものとは違った真実やその国の変化が垣間見えてくるかと思えます。

様々なことに興味や疑問を感じ、自分自身で探究して正しい知識を身につけてもらい、体験事業での経験を今後更に国際化が進む日本の中で活かして欲しいと思います。



## 違いを楽しむ

### 金（平石）敬乃（第14回ベトナム派遣）

私は小さな頃から漠然と日本の外へ行きたいなという気持ちが強い子どもでした。当時、小学校でALTによる英語教育も始まったことにより異文化や外国の方々と交流することに関心が高まりました。

中学校2年生の時、本事業について知り応募したところベトナムに行く機会に恵まれました。東南アジアの国々は発展途上国であるというイメージがありましたが、事前の勉強会でベトナムについて団員の方々と勉強することで不安より楽しみな気持ちで現地へ行くことができました。

特に記憶に残っていることは、少数民族の村にステイした際、お風呂がなくお湯を沸かしてくれた桶で体を清めたことです。日本の生活では体験できない不便さでしたし、ホストファミリーの配慮がありがたかったです。言葉はほとんど通じなかったですが、ジェスチャーや指差し会話帳でなんとかコミュニケーションをとったことも自信に繋がりました。全体の交流会でおはら節を一緒に踊ったり、事前に練習したホーチミンおじさんの歌？を披露しました。この歌は、今でも一節歌うことができるくらい印象深かったです。

気候、インフラ、家、言葉、食事、習慣、様々ことが違う中、お互いに興味を持って交流してみたいという気持ちだけが共通事項だったのではないのでしょうか。もちろん分からないことや通じないこともありましたが、それも含めて本体験事業の醍醐味を味わうことができました。

一方、青年海外協力隊への憧れも生まれましたが、自分が何で貢献できるかの具体的なイメージは持つことができませんでした。しかし、体験事業から長い時間が経っても、思い出は色褪せず、違いを楽しむマインドは今でも私の宝物です。

現在は、縁があり結婚した韓国人の夫を通じ、色々な場面で異文化を感じる日々です。これからも違いを許容し、楽しむ気持ちを忘れず過ごしていきたいと思えます。

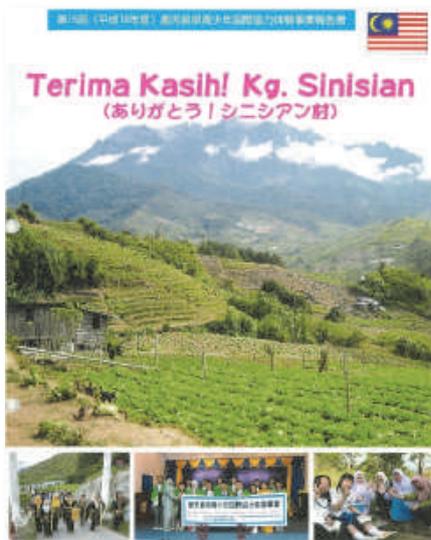
貴重な体験をさせてくれた本事業に改めて感謝申し上げます。



## 〔派遣団員〕

増留 弘亮	甲南高等学校
北園 優歩	鹿児島玉龍高等学校
白石 ともみ	鹿児島大学附属中学校
藤野 真登	枕崎中学校
村田 友香	枕崎中学校
新富 由利	蒲生高等学校
峯苔 裕子	加世田高等学校
緑川 菜々	大島北高等学校
蓮子 梨那	穎娃高等学校
丸久 あかね	串木野高等学校
吉満 瑞貴	甲南高等学校
田畑 梓	松陽高等学校

12名



## 〔同行者〕

弓場 秋信	県青年海外協力隊を支援する会事務局長
上片平 文裕	鹿児島県国際交流協会総務企画課長
田邊 ツル子	青年海外協力隊OV
原 奈美	青年海外協力隊OV (JICA国際協力推進員)
藤本 祐希	南日本新聞社会部記者
松本 久美	KKB鹿児島放送報道制作部記者

7/22	結団式 鹿児島空港発 福岡経由 クアラルンプール空港着 ホテル泊
7/23	クアラルンプール空港発 コタキナバル空港着 シニシアン村へ移動 ホームステイ
7/24	ホストファミリーと対面 ホームステイ
7/25	終日, ホストファミリーと過ごす ホームステイ 青年海外協力隊 中村隊員 (理学療法士) 活動視察 @ジヤランレストハウス訪問 (ラナウ) 青年海外協力隊 小嶋隊員 (木工) 活動視察 @モンフォート職業訓練校訪問 (コタキナバル) ホームステイ
7/26	シニシアン村で中高生との交流 (クダサン小学校/クダサン中学校) ホームステイ
7/27	お別れパーティ ホームステイ コタキナバル空港発 クアラルンプール空港経由 マラッカ空港着 マラッカ市内観光 ホテル泊
7/28	マラッカ空港発 クアラルンプール空港 JICAマレーシア事務所表敬訪問 機内泊 クアラルンプール市内観光
7/29	クアラルンプール空港発 福岡経由 鹿児島空港着 解団式



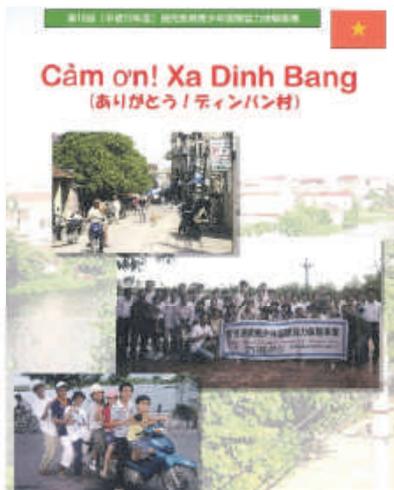
## 〔派遣団員〕

林 コナン	鶴丸高等学校
吉田 朱里	玉龍中学校
永井 昌美	志學館中等部
朝田 清子	枕崎高等学校
田畑 美紗貴	枕崎中学校
岩田 圭介	鹿児島修学館中学校
濱崎 瑠璃子	国分高等学校
上牧 美穂	国分高等学校
牟田原 美貴	鳳凰高等学校
鈴木 みや美	鳳凰高等学校
前原 実和	知覧中学校
塗木 ちあき	知覧中学校
叶 朝子	与論高等学校
比良 友恵	栗野中学校
尾下 望美	川床中学校
安藤 伸朗	志布志高等学校
吉岐 まい	鹿屋女子高等学校
17名	

## 〔同行者〕

西村 良二	鹿児島県国際交流協会専務理事
山下 美穂	青年海外協力隊ベトナムOV(助産師)
門野 誠	青年海外協力隊ベトナムOV(診療放射線技師)
真茅 貴子	青年海外協力隊ニジェールOV(小学校教諭)
奥村 佳子	青年海外協力隊インドネシアOV(助産師)
徳永 健一	KTS鹿児島テレビ放送霧島支局長

7/22	結団式 鹿児島空港発 ソウル経由 ハノイ空港着	ホテル泊
7/23	JICAベトナム事務所表敬 バクニン省へ移動 ホストファミリーと対面	ホームステイ
7/24	終日, ホストファミリーと過ごす	ホームステイ
7/25	青年海外協力隊 新井智子隊員(理学療法士)活動視察 @ハンディキャップ・チルドレンビレッジ (バクザン省) 青年海外協力隊 森田裕子隊員(村落開発普及員)活動視察 @ディンケ村(バクザン省)	ホームステイ
7/26	終日, ホストファミリーと過ごす お別れ会食	ホームステイ
7/27	ハノイ市へ移動 中高生との交流(チルドレンズパレス) *青年海外協力隊割田隊員派遣先 JICA関係者との懇談会	ホテル泊
7/28	ハノイ市内観光	ホテル泊
7/29	ハノイ空港発 ソウル経由 鹿児島空港 解団式	



## 〔派遣団員〕

山下 友子	鹿児島中央高等学校
野嶋 秀華	鹿児島玉龍高等学校
松延 梨華子	鹿児島玉龍中学校
宇津野 貴美	鹿屋中央高等学校
杉本 新奈	鹿屋中央高等学校
大窪 一夢	舞鶴中学校
有菌 貴彬	加世田常潤高等学校
永家 勇人	川辺高等学校
茂岡 希	鳳凰高等学校
宿里 沙弥佳	加世田常潤高等学校
太 勇也	徳之島高等学校
西田 愛香	鹿児島純心女子高等学校
荒武 凜	志布志高等学校
中菌 賢志	川床中学校
14名	

## 〔同行者〕

弓場 秋信	県青年海外協力隊を支援する会事務局長
上片平 文裕	鹿児島県国際交流協会総務企画課長
米川 明美	青年海外協力隊ラオスOV(看護師)
森谷 弥生	青年海外協力隊ポリビアOV(看護師)
加藤 武司	南日本新聞社会部記者
波佐間 崇晃	KYT鹿児島読売テレビ報道制作部記者

7/20	結団式 鹿児島空港発 福岡・バンコク経由 ビエンチャン着 ホテル泊
7/21	JICAラオス事務所表敬 ボンミー村へ移動 ホストファミリーと対面 ホームステイ
7/22	終日、ホストファミリーと過ごす ホームステイ
7/23	ビエンチャンへ移動 青年海外協力隊 鶴飼智弘隊員(水質検査) 活動視察 @チャナイモ浄水場 青年海外協力隊 鈴木彩乃隊員(保健師) 活動視察 @ビエンチャン市保健局 ホームステイ
7/24	ボンミー村の子供たちとの交流 お別れパーティ ホームステイ
7/25	ビエンチャンへ移動 シニア海外ボランティア 清水直美隊員(基礎保健) 青年海外協力隊 難波美絵隊員(助産師) 青年海外協力隊 早川美帆隊員(看護師) 活動視察 @セタティラート病院 JICA関係者との懇談会 ホテル泊
7/26	ビエンチャン市内観光 ビエンチャン空港発 バンコク経由 機内泊
7/27	福岡空港着 バス移動 鹿児島着 解団式



## 当時を振りかえって

西田 愛香（第17回ラオス派遣）

### ○初めての海外渡航

私が参加させて頂いたときは17回目。あれから13年、月日が過ぎ去るのは本当に早いものです。30回本当におめでとうございます！関わってくださったすべての方に、そしてこの事業が継続していることに感謝致します。

私は初めての海外がラオスでした。そして初めての渡航が開発途上国でよかったと思います。日本が改めて安全安心な国であること、そしていかに私自身が恵まれているかを体験しました。JICAの活動も学べることができ、現地でホームステイもできるそんな事業は本当に恵まれていて、私自身の当時の好奇心を膨らませました。

同世代の子が韓国のアイドルを見てキャーキャーいっていて当時の私は韓国のアイドルには疎かったのですが、同じアイドルの話で盛り上がりました。そして、言葉も通じない中でのコミュニケーション、食文化・住文化の違い、ラオスの方の温かさに触れ、4泊5日のホームステイでしたが、別れるころにはとっとも寂しくなり号泣したのをいまでも思い出します。

### ○父の心配

私は当時高校2年生。純心高校ではカナダ留学のホームステイが出来るのですが、それは両親に反対され、参加することが出来ず、読売新聞が応募しているアメリカの研修旅行にも応募したのですがそれは面接で落ちてしまいました。当時、どうしても海外に行きたいと思っていた私は、学校の回覧板で見つけたラオスという国、そしてJICAの活動に興味を持ち応募したのでした。

ラオス行きが決まったとき、父が事務局にお邪魔して本当に大丈夫なのか？と問い合わせたそうです。（私の勝手な想像ですが、）私のホームステイ先だけ本当に他のメンバーと違ったというか、、お風呂もトイレも溜まった雨水を使用するというお家が多い中、私のホームステイ先のお風呂はシャワーがあり、トイレも洋式のトイレでした。父がお問い合わせしたことで、私にはすこしほかの方たちと違うお家にしてくれたのかな？と勝手に思い込んでいました。本当に事務局の皆様にはご迷惑をおかけしたかな？と思っています。ご対応頂きありがとうございました。

### ○その後の自分

私はこの事業に参加して、チャレンジする事の大切さを学びました。JICAで活動している方々のチャレンジしている姿に刺激を頂き、夏休み終わった後から書道部に入部して活動し、生徒会長、寮長を経験させてもらいました。何事にもチャレンジしようという自分になりました。

当時JICAについて学び、JICAのメンバーになることはとても憧れで当時の私は夢を描いておりましたが、大学を兵庫県で4年間過ごし、社会人2年間を大阪で過ごした後、今は実家に戻り徳之島で父の事業（旅館業、タクシー業、不動産業）を手伝っております。

セネガルでJICAの活動をした方が1ターンで島に移住して下さり、お話をお伺いし、ラオスに行ったことを思い出しました。社会人として経験を積んでJICAの一員として活動したいという思いは消えませんが、今は実家を支えたい、徳之島の知名度を上げたいと日々活動しています。

同郷で当時一緒に参加した太君もいまは同じ島で、ふるさと納税で返礼品としてマンゴーとパッションフルーツを作って島を盛り上げています。

そして日本にいられた海外の方にラオスでして頂いたおもてなしを今度は私がお返しできたらと思っています。

最後になりましたが、今国際情勢はロシア、ウクライナ、イスラエル、パレスチナのハマスがそして小さな子供達、赤ちゃん、女性たくさんの方々が戦争の犠牲になっています。今こそJICAの存在を生かす時、立ち上がる時だと思います。JICAの今後ますますのご発展をご祈念したいと思います。



## 〔派遣団員〕

松村 祥子	鹿児島純心女子高等学校
吉永 真愛	鶴丸高等学校
藤崎 絢末	鹿児島玉龍中学校
丸久 千裕	開陽高等学校
田中 美久	鹿屋中央高等学校
鶴丸 千草	高隈中学校
宇都 真太郎	薩南工業高等学校
外園 詩織	鳳凰高等学校
有木 広秋	鳳凰高等学校
下竹 輝希	枕崎中学校
田畑 侑紀	松陽高等学校
崎迫 愛香	川床中学校
内山 祐紀	市来農芸高等学校
永田 愛夏	樋脇中学校

14名



## 〔同行者〕

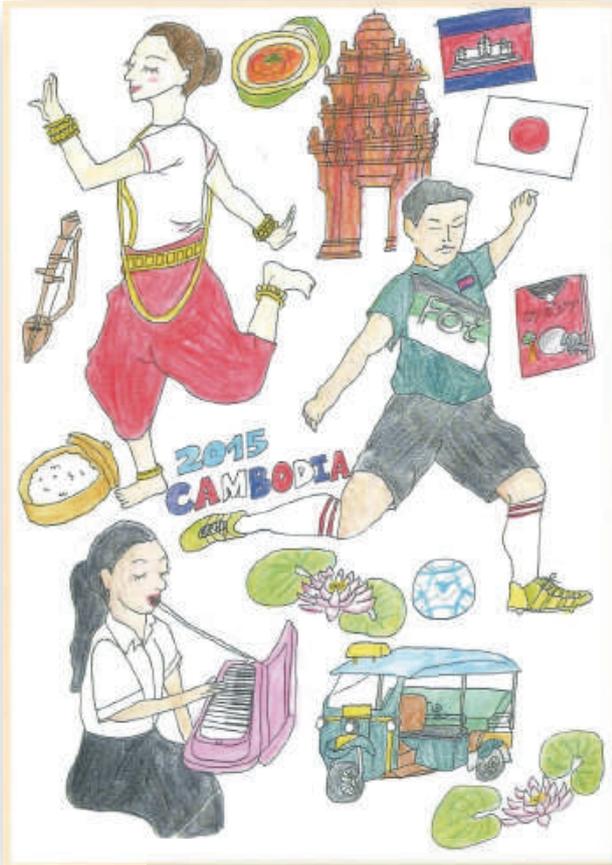
肥後 憲郎	鹿児島県国際交流協会 事務局長
林田 学	青年海外協力隊ラオスOV(稲作)
段原 美幸	鹿児島県国際交流協会交流推進員
柳元 理恵	青年海外協力隊ドミニカ共和国OV(看護師)

7/19	結団式 鹿児島空港 福岡・バンコク経由 ビエンチャン着 ホテル泊
7/20	JICAラオス事務所表敬 ナーン村へ移動 ホストファミリーと対面 ホームステイ
7/21	終日、ホストファミリーと過ごす ホームステイ
7/22	ビエンチャンへ移動 青年海外協力隊 鶴飼智弘隊員(水質検査)活動視察 @チャナイモ浄水場 青年海外協力隊 成田祥子隊員(看護師)活動視察 @国立母子保健病院 ホームステイ
7/23	ナーン村の子供たちとの交流 お別れパーティ ホームステイ
7/24	ビエンチャンへ移動 青年海外協力隊北村愛隊員(助産師)活動視察 @サイセッター郡病院, バンテゥンヘルスセンター JICA関係者との懇談会 ホテル泊
7/25	ビエンチャン市内観光 ビエンチャン空港発 バンコク経由 機内泊
7/26	福岡空港着 バス移動 鹿児島着 解団式



# \*\*\* 報告書アート \*\*\* Part 3

第24回（平成27年度）カンボジア派遣団員 崎野ほのかさん



第26回（平成29年度）ラオス派遣団員 山本珠子さん



第25回（平成28年度）ラオス派遣団員 上之門優里さん

## 〔派遣団員〕

岩川 朋之	鹿児島中央高等学校
八木 真理奈	甲南高等学校
入佐 彩加	甲東中学校
久保 健太	鹿屋高等学校
木藤 友香	大始良中学校
村上 将太郎	陵南中学校
川口 みなみ	池田高等学校
奈良迫 ひかる	松陽高等学校
福永 梨々子	鳳凰高等学校
脇 佳ノ介	加世田常潤高等学校
井手 優歩	鹿児島実業高等学校
池田 茜	鹿児島中央高等学校
椋山 莉早	加治木高等学校
13名	

## 〔同行者〕

弓場 秋信	県青年海外協力隊を支援する会事務局長
松木 順治	鹿児島県国際交流協会総務企画課長
竹下 夏美	青年海外協力隊インドネシアOV(看護師)
柳元 理恵	青年海外協力隊ドミニカOV(看護師)
重吉 亮佑	南日本新聞編集局社会部記者
本坊 伊知子	MBC南日本放送報道局報道部記者



- 8/1 結団式  
鹿児島空港発 ソウル経由 ジャカルタ空港着 ホテル泊
- 8/2 JICAインドネシア事務所  
ジャカルタ空港発 マサッカール空港着 ホテル泊
- 8/3 JICAマカッサル事務所表敬  
青年海外協力隊 伊東和希子隊員(野菜)活動視察・体験  
ピナバサ村へ移動  
ホストファミリーと対面 ホームステイ
- 8/4 終日、ホストファミリーと過ごす ホームステイ
- 8/5 青年海外協力隊 田淵綾隊員(保健師)活動視察・体験  
青年海外協力隊 熊倉百合子隊員(青少年活動)活動視察・体験 ホームステイ
- 8/6 ピナバサ村現地中学生との交流会  
お別れ会 ホームステイ
- 8/7 マサッカール空港発 ジャカルタ空港着  
ジャカルタ中心部観光  
ジャカルタ空港発 機内泊
- 8/8 ソウル経由 鹿児島空港着  
解団式



## 鹿児島県青少年国際協力体験事業と私

### 八木 真理奈（第19回インドネシア派遣）

この度、鹿児島県青少年国際協力体験事業が30回目の海外研修を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

出張や旅行で東南アジアを訪れ、東南アジア特有の高温多湿の空気に包まれると、13年前の夏、鹿児島県青少年国際協力体験事業として、初めてインドネシアに降り立った時のことを今でも思い出します。私が参加させていただいた第19回目ではインドネシア各地のJICA事務所や青年海外協力隊の活動を見学させていただき、青年海外協力隊の方々や現地の方々との交流を通じ、国の文化や生活の違いについて肌で学ぶことができました。見るもの全てが新しく、日本との違いに心が躍る一方で、教科書に書かれている貧困の問題が一気に私自身の問題として降ってきたように感じ、一瞬一瞬を逃さないように必死でメモを取ったのを覚えています。

インドネシアのマカッサル島にあるピナバサ村では、互いの生活や文化に関するディスカッションを通じて交流を深め、村の方々の優しさに触れることができました。特に、本当の家族のように受け入れてくれたホストファミリーへの感謝は言い表せません。ピナバサ村で迎える初めての朝、厳かな祈りの曲で目が覚めると、一緒に寝ていたホストシスターが静かに祈りを捧げていました。その姿から、たとえ衣食住や民族、宗教が異なっていたとしても、人に対する優しさや何かを大切に思う気持ちは同じであることを感じ、多様性と同時に、人間の普遍性や共通性についても再認識できた体験として強く心に残っています。これらの経験を通して、「一人ひとりの大切な生活を尊重し、多様な社会が持続可能な形で共存・共栄していくために、私には何ができるのか」という問いが私の人生の問いになりました。

本事業で私の心に根付いた国際協力の芽は今でも成長を続け、大学卒業後IT企業での勤務、並びに海外赴任を経て、ビジネスの面から国際協力を研究したいと考え、今年から大学院に進学しました。大学院では、ビジネスの持続的な発展と貧困層の生活水準の向上を実現する、BOPビジネスの研究を深めるため、日々勉学に励んでいます。インドネシアで出会った方々の優しさや青年海外協力隊の方々の勇姿、共にインドネシアに渡った仲間たちとの思い出は、10年以上経った今も心の中で色鮮やかなまま、私を奮い立たせてくれます。

私のキャリア形成、問題意識の原体験は間違いなく本事業であり、有意義な活動が継続されていることを大変嬉しく思います。また、今後さらなる技術革新と国際化の機運が高まる中で、本事業の重要性もますます高まっていくと推測されます。本事業を通じて多くの学生の方々が国際協力に対する理解を深め、国際性豊かな人材としてより一層活躍されることをお祈り申し上げます。

末筆ではございますが、本事業の更なる飛躍と関係者皆様の益々のご繁栄を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 〔派遣団員〕

中尾 聖	吉田南中学校
坂元 智樹	長田中学校
吉田 侑可	鹿児島玉龍高等学校
鶴丸 木綿花	鹿屋女子高等学校
松元 春香	国分中央高等学校
吉嶺 彩夏	桜山中学校
深川 桃花	立神中学校
瀬川 明	加世田高等学校
楠元 崇孔	川辺高等学校
悦田 愛	鳳凰高等学校
岡 祐里	市来中学校
中屋 諒大	串木野西中学校
中野 桜緒	鹿児島純心女子高等学校
豊留 春菜	鹿児島松陽高等学校
須賀 雄平	種子島中央高等学校
園田 広海	種子島中央高等学校
16名	



## 〔同行者〕

弓場 秋信	県青年海外協力隊を支援する会事務局長
竹内 文紀	鹿児島県国際交流協会総務企画課長
山下 美穂	青年海外協力隊ベトナムOV(助産師)
永山 麻理	青年海外協力隊ラオスOV
山城 裕司	南日本新聞編集局社会部記者
松崎 真紀	KTS鹿児島テレビ放送報道部記者

7/24	結団式 鹿児島空港発 ソウル経由 クアラルンプール空港着 ホテル泊
7/25	JICAマレーシア事務所表敬 クアラルンプール空発 コタバル空港着 クバンテラガ村へ移動 ホストファミリーと対面・歓迎会 ホームステイ
7/26	青年海外協力隊員活動視察 高山葵隊員(ソーシャルワーカー) 捧文字隊員(作業療法士) 藤原講平隊員(体育) @PDK障害者センター ~地域に根ざしたリハビリテーション~ クバンテラガ村現地学生との文化交流会 ホームステイ
7/27	青年海外協力隊 奥村由夏隊員 (養護) 活動視察 @チェト中学校訪問 太平洋戦争痕跡視察 ホームステイ
7/28	終日、ホストファミリーと過ごす(農業体験) お別れ会 ホームステイ
7/29	コタバルショッピングセンター視察 コタバル空港発 クアラルンプール空港着 ホテル泊
7/30	クアラルンプール市内及び郊外観光 クアラルンプール空港発 機内泊
7/31	ソウル経由 鹿児島空港着 解団式



## 〔派遣団員〕

生駒 千芳	甲東中学校
牟田 京実	鹿児島大学附属中学校
久保田 希歩	鹿児島純心女子高等学校
松元 理菜	鹿屋中学校
石丸 寧々	陵南中学校
箆原 莉子	桜山中学校
川畑 明良	枕崎中学校
丸谷 尚生	枕崎中学校
西 紗央里	青戸中学校
池田 朱里	加世田高等学校
西野 奈那	鹿児島水産高等学校
恵 亜生	大島高等学校
千竈 佐保	加治木高等学校
林 みな子	種子島中央高等学校
黒坂 愛梨	松陽高等学校
白鳥 翔子	志布志高等学校
16名	

## 〔同行者〕

桑山 昌洋	青年海外協力隊県OB会会長
森山 健二	鹿児島県国際交流協会事務局長
山下 美穂	青年海外協力隊ベトナムOV(助産師)
力竹 貴子	青年海外協力隊ニジェールOV(小学校教諭)
福盛 三南美	南日本新聞編集局社会部記者
松本 直也	KKB鹿児島放送報道部記者

7/22	結団式 鹿児島空港発 ソウル経由 ホーチミン空港着 ホテル泊	
7/23	在ホーチミン日本国総領事館表敬 ヴィントイ村へ移動 ホストファミリーと対面	ホームステイ
7/24	ミトー市へ移動 青年海外協力隊 後藤沙織隊員 (作業療法士) 活動視察 @ティエンザン省総合病院 現地中学生との交流会	ホームステイ
7/25	タンビン郡へ移動 青年海外協力隊 館野友子隊員 (村落開発普及員) 活動視察 @ビンロン省農業開発局 (モデルファームにて活動視察)	ホームステイ
7/26	終日、ホストファミリーと過ごす お別れ会	ホームステイ
7/27	ホーチミンへ移動 水上人形劇鑑賞 現地派遣中の青年海外協力隊2名と懇談	ホテル泊
7/28	ホーチミン市内観光 ホーチミン空港発	機内泊
7/29	ソウル経由 鹿児島空港着 解団式	

鹿児島県(平成24年度)青年海外協力隊青少年国際協力体験事業

**Xin chào Xa Vinh Thoi**  
(こんにちは! ヴィントイ村)



## 〔派遣団員〕

久保下 菜摘	鹿児島情報高等学校
坂上 聖夜	鹿児島商業高等学校
東 拓志	甲東中学校
小林 利器	鹿児島情報高等学校
坂口 万亜子	鹿屋高等学校
安藤 博香	立神中学校
俵積田 悠	立神中学校
松田 侑穂	神村学園高等部
今村 紘実	霧島高等学校
服部 花音	神村学園高等部
久保 友佑	串木野中学校
田元 幸奈	鳳凰高等学校
上田 尚佳	川辺高等学校
永田 光	鹿児島情報高等学校
川畑 結花	垂水高等学校
柳 栄三郎	東郷中学校
増田 美穂	松陽高等学校
17名	

## 〔同行者〕

内和田 浩巳	鹿児島県国際交流協会事務局長
力竹 貴子	青年海外協力隊ニジュールOV(小学校教諭)
夏迫 歩美	青年海外協力隊ベトナムOV(理学療法士)
谷口 光代	青年海外協力隊モロッコOV(助産師)
三宅 太郎	南日本新聞記者
山崎 淳士	KYT鹿児島読売テレビ記者

7/21	結団式 鹿児島空港発 ソウル経由 ハノイ空港着	ホテル泊
7/22	JICAベトナム事務所表敬 ハノイ空港発 ダナン空港着 ホストファミリーと対面(ダナン市外務局)	ホームステイ
7/23	青年海外協力隊 小野優暢隊員 (理学療法士) 活動視察 @ダナンリハビリ療養病院訪問 現地中学生との交流会	ホームステイ
7/24	青年海外協力隊 好田果奈隊員 (環境教育) 活動視察 @ホイアン市責源環境室訪問 (ゴミの埋め立て地・コンポストの見学) 世界遺産古都ホイアン視察	ホームステイ
7/25	終日、ホストファミリーと過ごす お別れ会	ホームステイ
7/26	ダナン国際空港発 ハノイ空港着	ホテル泊
7/27	ハノイ市内観光 ハノイ空港発	機内泊
7/28	ソウル経由 鹿児島空港 解団式	



## 衝撃の連続から

### 久保友佑（第22回ベトナム派遣）



このたびは、鹿児島県青少年国際協力体験事業 30 周年おめでとうございます。  
私は 2013 年に団員としてベトナム・ダナンで青年海外協力隊の活動視察と現地住民の方々との交流を経験させていただきました。振り返ると、当時中学 3 年生だった私にとって本事業での活動は衝撃的な経験の連続でした。まず、環境教育分野の協力隊員を訪問した際、隊員が大量のゴミの山を見ながら「戦後の日本も同じ状況だったが世界から援助してもらって今がある。これからは世界へ恩返しをしなければならない。」と話を聞き、衝撃を受けました。衛生環境が綺麗に保たれている日本での生活が当たり前のようにあることに感謝すると同時に、自分に何ができるのかを真剣に考えるようになりました。

次に、現地中学生との交流会の際、鹿児島を知っている学生がいなかったことに衝撃を受けました。鹿児島には食・自然・歴史・文化など魅力的な地域資源があり、鹿児島県民であることを誇りに思っていました。魅力が伝わっていない現状から、鹿児島の魅力を国内外に発信したいと考えるようになりました。

上記をはじめとする本事業での経験から地域共創に興味を持ち、「九州の地域創生に貢献する」と目標を立て、学生時代に 6 か国への留学や様々な地域活動に参加してきました。

そして現在、地域の魅力を適切に理解し、多くの人を巻き込みながら共創するという思いを持ちながら、地域共創業務に取り組んでいます。このような思いを持つことができたのは、異なる価値観や考え方をを持った多様性のある方々と交流できたことや海外から鹿児島を見ることができたからです。これからも本事業での経験を活かして九州を舞台に地域の方々と目標達成のために共創してまいります。

最後となりますが、関係者の皆様に感謝を申し上げますとともに、本事業と鹿児島県の更なる発展をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 驚きと感動、そして気づいたこと

### 上田尚佳（第22回ベトナム派遣）



この度は、国際協力体験事業 30 周年おめでとうございます。  
私がベトナムに行ったのは 10 年以上前になりますが、初めての海外は高校生の私には、見る物すべてが衝撃と感動だったのを覚えています。まず、衝撃を受けたのが、派遣事業の目的の 1 つである青年海外協力隊の視察でダナンのリハビリ療養病院を訪れた時のことです。病院で働く看護師はカルテが読めず、就業意欲が無く、患者さんの世話をしたがるらないという事実。そして医療機械を導入しても機械を扱える人がいないため協力隊

の小野さんが技術を教えて、養成しているという話を聞きました。私は風邪をひいたらすぐに病院へ行き、快適な病室で適切な治療をしてもらえることが当たり前だと思っていましたが、国が違えばそもそも学校に行けず、文字が読めない人もいるのだとショックを受けたと同時に、自分の生きている環境がいかに恵まれているのかを肌で感じた瞬間でした。

ベトナム滞在中、毎日が新鮮で刺激の多い毎日でしたが、特に驚き、感動したことがあります。それは、ベトナム人の心の豊かさです。夜になると、仕事をすぐに切り上げ、近所に住む親せき・友人と楽しく食事をしたり、タクシーに乗りお酒を飲みに行くなど、大事な人たちと過ごす時間を、とても大切にしているようでした。その光景を見て、遅くまで残業をして忙しく働く日本人と比べると決して恵まれた環境ではないけれど、人生を楽しんでいるように見え、はっとさせられた時間でした。

この経験をきっかけに、大学は東南アジアについて学びたいと思い、高知大学の東南アジアを専門とする学科に進学しました。大学在学中も中国人やベトナム人の留学生に日本語を教えたり、生活サポートをするボランティア活動をしていました。

現在は、第 18 代かごしま親善大使として、鹿児島の観光 PR に力を注ぐとともに鹿児島に来てくださる国内外の方に鹿児島を好きになってほしいと試行錯誤の日々です。

国際協力体験事業に勇気を出して参加したことで、自分の世界が広がり、異文化を理解したい気持ちが深まったのだと思っています。短い期間とはいえ、この研修は私にとってはとても濃い時間であり、気づきの多い経験をさせてもらいました。本当にありがとうございました。



〔派遣団員〕

有川 輝	鹿児島玉龍高等学校
野村 優華	鹿児島中央高等学校
三浦 若葉	鹿児島大学附属中学校
上蘭 晴日	鹿屋農業高等学校
山口 花	鹿屋女子高等学校
園田 千尋	川辺高等学校
福田 まりや	国分高等学校
村上 武	陵南中学校
小宮 和歌菜	川辺高等学校
中之蘭明日香	川辺高等学校
新原 瑠海	加世田高等学校
今村 安里	松陽高等学校
白鳥 康代	志布志高等学校
川節 さやか	大島高等学校
内村 朱里	龍桜高等学校
佐々木 拓真	薩摩中央高等学校
16名	

〔同行者〕

弓場 秋信	県青年海外協力隊を支援する会事務局長
福永 未帆	青年海外協力隊カンボジアOV(理数科教師)
谷口 光代	青年海外協力隊モロッコOV(助産師)
坂元 絵理	青年海外協力隊ポリビアOV(保健師)
吉崎 美幸	鹿児島県国際交流協会交流推進員
森山 莉華子	南日本新聞報道部記者
柳沼 雅貴	MBC南日本放送報道局テレビ制作部

- 7/20 結団式  
鹿児島空港発 ソウル経由 プノンペン空港着 **ホテル泊**
- 7/21 JICAカンボジア事務所表敬  
JICAボランティア活動視察  
八木隊員(観光業)  
野村隊員(環境教育)  
@観光省  
現地関係者との食事会 **ホテル泊**
- 7/22 バッタバンへ移動(貸切バス)  
ホストファミリーと対面 **ホームステイ**
- 7/23 青年海外協力隊活動視察  
森本隊員, 須藤隊員(小学校教育)  
@バッタンバン・チアシム小学校 **ホームステイ**
- 7/24 終日、ホストファミリーと過ごす **ホームステイ**
- 7/25 学校交流(バッタンバン中学校教員養成学校)  
お別れ会(Hope of Children (HOC)) **ホームステイ**
- 7/26 シェムリアップへ移動(貸切バス)  
アンコールワット視察  
シェムリアップ空港発 **機内泊**
- 7/27 ソウル経由 鹿児島空港着  
解団式



## カンボジア＝私の青春！

### 三浦 若葉（第23回カンボジア派遣）

プノンペン空港を出て見た情景を今でも鮮明に覚えている。東南アジア特有のじめじめとして生暖かい空気、四方から聞こえてくるクメール語、到着ゲートに殺到するカンボジアの現地の人々…夜中にホテルへ向かうバスの中から微かに見えるローカルの屋台や3人乗りのバイクは中学2年生で初海外の私には刺激が強かったのか、なんだか恐怖に近いような感情を持った。翌朝研修の為に街へ出ると、昨晚の雰囲気とはガラッと変わり、活気に満ち溢れた街の姿があった。街には建設中のビルが立ち並び、ショッピングモールや市場は沢山の人が賑わっていた。

派遣時の忘れられない出来事といえば、おにぎり事件を真っ先に挙げようと思う。ホームステイ先で日本食を振る舞おうと、日本からラップとふりかけを持参し、おにぎりを作ったのだが、ホストファミリーは誰ひとりそのおにぎりを食べてくれなかったのだ。ショックのあまり、当時の団長である弓場さんの滞在先に泣きながら駆け込んだのを覚えている。私だって滞在中ボンティアコーン（孵化直前のアヒルの卵）は食べなかったのだが…

カンボジア農村部の生活や、JICA ボランティアとして異国で活躍される日本人の方々との交流は、今まで日本でしか生きてきたことがない自分の固定観念をひっくり返し、見える世界がぐんと広がった感じがした。

これをきっかけに、カンボジアの文化や歴史に興味を持ち、実際に現地の人々の立場から体験したいと考え、カンボジアの大学に進学した。大学では同年代の現地の友人が沢山出来た。彼らは学びに貪欲で、プログラミングを極める子や自分で会社を立ち上げた子など多様性に富んでおり、彼らとの関わりが楽しくて仕方なかった。また在学時にはカンボジアで初めての高速道路も開通し、プノンペンには相変わらず大きなビルがどんどん建設された。発展途上国ならではの目まぐるしい経済成長をリアルタイムで感じながら学校生活を送った。ここでは語り切れないのだが、中学2年生の国際協力体験事業、そして大学生活を通してカンボジアへ向き合った経験は自分の大きなアイデンティティの一つとなった。

現在は東南アジア各国の文化や社会の多様性に魅力を感じ、もっと他の国を見てみたいと思うようになり、縁あってインドネシアで働いている。カンボジアとの出会いで培った異文化との向き合い方を活かすことができたらと思う。

東南アジア諸国にいと、新興国や発展途上国の目まぐるしく移り変わる社会の強烈なエネルギーを感じられる。ぼーっとしていたら取り残されてしまう。10年後、20年後はどこにいてどんな自分になっているのか全く想像ができないが、この勢いに負けずに私も生きていこうと思う。

このようにカンボジアに出会うきっかけをくださった貴協会の皆様、第23回鹿児島県青少年国際協力体験事業に関わってくださった当時の実行委員会の皆様、同行者の皆様に改めて心より感謝申し上げます。これからも多くの青少年が貴協会の体験事業を通して異文化に触れ、世界の広さや美しさを感じてほしいと願っております。

## 〔派遣団員〕

伊地知 優	鹿児島純心女子中学校
徳留 慶亮	鴨池中学校
盛山 桜子	鹿児島玉龍高等学校
久保 佑太	鹿屋工業高等学校
箆原 永奈	桜山中学校
白澤 希	川辺高等学校
有川 舞	加治木高等学校
崎野 ほのか	神村学園高等部
新屋 響	神村学園高等部
有上 茉那	大笠中学校
豊留 朱音	川辺高等学校
西 亜弥	川辺高等学校
粟ヶ窪 陸	沖永良部高等学校
福満 天翔	加治木高等学校
大城 彩音	鹿児島純心女子高等学校
土持 ひかり	江内中学校
16名	



## 〔同行者〕

桑山 昌洋	県青年海外協力隊を支援する会理事
瀬角 龍博	青年海外協力隊ガーナOV(理数科教師)
田代 芽衣	青年海外協力隊ラオスOV(看護師)
直岡 佳奈	鹿児島県国際交流協会 交流推進員
上山 智子	南日本新聞編集局報道部記者
西 浩一郎	KTS鹿児島テレビ放送報道部記者

- 7/19 結団式(かごしま県民交流センター)  
鹿児島中央駅発 博多駅着  
福岡空港発 ソウル経由 フノムペン空港着 **ホテル泊**
- 7/20 JICAカンボジア事務所表敬  
カンダール州タクマウ市へ移動  
タクマウ市表敬訪問  
ホストファミリーと対面  
(タクマウ第3村, ブレイク・サムラオン村)  
**ホームステイ**
- 7/21 終日、ホストファミリーと過ごす **ホームステイ**
- 7/22 青年海外協力隊 吉岐友輔隊員  
(サッカー) 活動視察  
@Cambodia National Football Center  
学校交流(アヌワット中学校) **ホームステイ**
- 7/23 青年海外協力隊 鈴木有華隊員  
(青少年活動) 活動視察  
@サテポー中学校  
お別れ会 **ホームステイ**
- 7/24 フノムペンへ移動  
フノムペン・セントラルマーケット, イオン視察  
現地関係者との食事会 **ホテル泊**
- 7/25 王室&シルバーパコダ・国立博物館,  
ツールスレン博物館視察 **機内泊**
- 7/26 フノムペン空港発 ソウル経由 福岡空港着  
博多駅発 鹿児島中央駅着  
解団式



## カンボジアからタンザニアへ

### 久保 佑太（第24回カンボジア派遣）

この度は、青少年国際協力体験事業が第30回目を迎えたということでおめでとうございます。  
私は第24回平成27年度青少年国際協力体験事業でカンボジアに派遣されました久保佑太と申します。



私はカンダール州タクマウ市で11人家族のご家庭にホームステイをさせていただきました。

ホームステイ最終日に私が家の周りを散歩してみたいと家のBOSSであるおばあちゃんに言うと、行ってきていいよと言われたので、一人で家の周りを散歩に行きました。

事前研修やJICA事務所の方からスリが稀にあるという話をきいていたので、360度警戒しながら歩いていたのですが、私が歩くと動き、立ち止まると止まるバイクが後ろからついてきていることに気が付きました。怪しい思い、とても警戒していたのですが、運転手の顔をよく見てみると、ホームステイ先のお兄ちゃんて心配して家からついてきてくれたそうです。

この体験事業でカンボジアの方の優しさをたくさん感じる事ができました。私はこの体験が未だに忘れられず、カンボジアの家族が大好きで8年経った今でもメッセージのやりとりをしています。

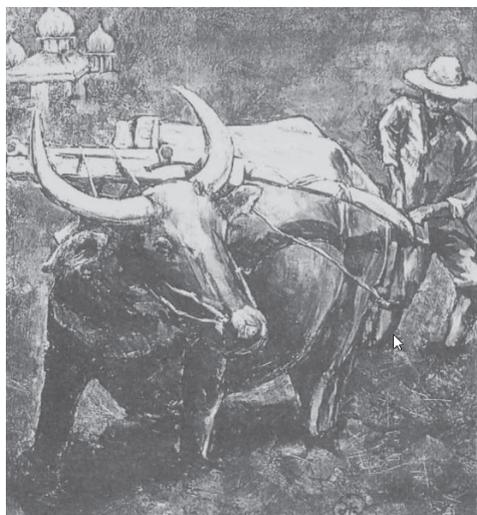
現在、私はJICA海外協力隊2023年度1次隊でタンザニアの職業訓練校にPCインストラクターとして派遣されています。

このJICA海外協力隊に参加したいと思ったきっかけとして、体験事業でJICA海外協力隊のサッカー隊員の方の活動を視察させていただいたときに、流暢な現地語で活動している姿に感銘をうけ、私もこんな風に世界の誰かの役に立てたらと協力隊になりたいと思いました。

今、私が協力隊員としてタンザニアで活動できているのは、間違いなくこの体験事業のおかげなので、この体験事業に携わってきた皆様にとっても感謝しています。そして、この体験事業がいつまでも続くことを祈っています。

オークンチュラウン！！

(カンボジアのクメール語でありがとうございました。)



## 〔派遣団員〕

関 文子	鹿児島純心女子高等学校
俣野 稜介	吉野中学校
横山 真由凜	鹿児島大学附属中学校
福田 楓歩	鹿屋中学校
道野 はるか	川辺高等学校
二宮 花音	加治木高等学校
山内 麻未	鹿児島第一高等学校
大倉 憩生	加世田高等学校
有田 真衣	川辺高等学校
上之門 優里	川辺高等学校
外堀 真那	神村学園中等部
柳 ひな子	出水高等学校
久保 日向子	尚志館高等学校
榎屋 夢	内之浦中学校
14名	

## 〔同行者〕

稲富 郁夫	鹿児島県国際交流協会総務企画課長
坂本 渉	青年海外協力隊ラオスOV(電子機器)
大坪 まみ	青年海外協力隊ラオスOV(看護師)
後藤 まどか	青年海外協力隊フィリピンOV(観光)
西 悠宇	南日本新聞報道部記者
西 萌々佳	KKB鹿児島放送報道情報センター記者



7/24	結団式 鹿児島中央駅発 博多駅着 福岡空港発 バンコク経由 ビエンチャン空港着 ホテル泊
7/25	ボンミー村へ移動 ホストファミリーと対面 ホームステイ
7/26	青年海外協力隊 高木とも子隊員 (助産師) 活動視察 @パークグム郡病院 ホームステイ
7/27	青年海外協力隊 立尾論世隊員 (日本語教育) 活動視察 @ラオス青年同盟 ホームステイ
7/28	学校交流(ボンミー小学校) バーシー・お別れ会 ホームステイ
7/29	ビエンチャンへ移動 JICAラオス事務所表敬 ナイトマーケット, ラオス伝統舞踊視察 ホテル泊
7/30	ビエンチャン市内視察 友好橋・フツタパーク, タートルアン・パトウサイ ビエンチャン空港発 バンコク経由 機内泊
7/31	福岡空港着 鹿児島着(貸切バス) 解団式



## 「国際協力を知る第一歩」

### 山内麻未（第25回ラオス派遣）

まずはじめに、この度は青少年国際協力体験事業 30 回目を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

私は 2016 年のラオス派遣に参加しました。当時、「国際協力」に興味があり、本事業のポスターを拝見してすぐに参加を決めました。しかし、訪問先は東南アジアで最貧国といわれるラオス。未知の国ではありましたが、好奇心旺盛な派遣団員と出会うとすぐに不安はなくなりました。



現地では 2 人の青年海外協力隊員を訪問しました。1 人目は助産師として活動する隊員です。病院を見学させてもらった後、現地での活動内容や医療事情について聞きました。船で診療へ行ったり、入院するときは家族も寝泊りするなど、日本の生活では考えられない習慣を聞き大変驚きました。

2 人目は日本語教師として活動される隊員です。現地で日本語を学ぶ方々と一緒におはら節を踊ったり、鹿児島について紹介したりしました。日本語を熱心に学ばれていた様子を今でも覚えています。お二人とも日本から来た私たち中高生を快く迎えてくださり、現地での活動内容や協力隊員になった経緯、現地での生活などについてお話ししてくださいました。お二人とも眩しいくらい輝いていて、かっこよかったです。

ホームステイでは村長の家にステイしました。猛特訓したラオス語で自己紹介をしたり、持参した紙芝居を現地の子どもに読んであげたりしました。また、日本のカレーを作ると、ホストファミリーがとても喜んで食べてくれたのも嬉しかったです。村の方々はやさしくて、私たちに伝統衣装のシンや幸運を祈るパーシーという儀式もしてくれました。ピンク色のシンはとてもかわいくて、今でも大切に保管しています。

私は本事業を通して、「他の人の役に立ちたい。」という思いがより強くなりました。大学入学後は、学業はもちろん、日本語ボランティアや留学生のチューターなど、興味のあることに積極的に取り組んできました。私は心に残っている隊員の言葉があります。それは「支援」という言葉についてです。「支援というのは、一方的に教えたり与えたりするのではなく、現地の人に寄り添い一緒に行動していくことだ」。この言葉を胸に、今後も精進していきたいです。

## 実体験によって視野を広げる重要性

### 榎屋 夢（第25回ラオス派遣）

私は 7 年前の中学一年生の時にこの事業に参加させていただき、ラオスへ行きました。

私の母も学生時代に第 1 回目のこの事業に参加させていただいており、母から当時の話を聞く度に「私もこんな世界を体験してみたい」という思いが強まっていたため、合格通知が届いた時は本当に嬉しかったです。しかしそうは言っても、当時参加者の中で最年少だった私はまだまだ子どもで、それまでアメリカや韓国などの先進国にしか行ったことがなかったことに加え、親のいない旅は初めてであり、期待が大きかった分、不安も大きかったです。出発後の新幹線の中で涙したことを今でも鮮明に覚えています。

そんな不安を見事に裏切るようにラオスでの日々は本当に充実していて毎日があっという間に過ぎて行きました。

まずは JICA 海外協力隊の方々について。助産師と日本語教師の元へ行き、活動の様子を見させていただきました。助産師の方は、数少ない医療設備と、整いきれていない衛生環境や交通網の中、出産に伴う死亡率を母子共に減少させていました。日本語教師の方も笑顔が絶えず、学生たちと楽しみながら授業を行い、将来日本で働きたいという学生たちの日本語教育に貢献されていました。お二方に共通していたことは、「限られた資源の中で常に最善を求めている」とことと『してあげる』のではなく『共にする』という姿勢です。JICA 海外協力隊の活動内容について知ることはもちろん、本当の国際協力とはなんだろうと考えるきっかけになりました。

次にホームステイと地元の方々との交流について。ボンミー村の小学校に行き、書道パフォーマンスを行ったり音頭を踊ったりしました。事前研修で練習した通りにすることができ、子どもたちも楽しそうにしてくれたので嬉しかったです。ホームステイ先では、ホストファミリーと一緒に食事をしたり、市場やお寺に連れて行ってもらったり、シンという伝統衣装を作ってもらったりしました。家にエアコンや温水シャワー、洗濯機がなかったため、不便さを全く感じなかったとは言いきれませんが、水浴びや手洗いの洗濯など、初めての体験ばかりで大変面白かったです。単語帳片手に拙いラオス語で話す私を嫌な顔一つせずゆっくりと何度も待っていてくれたこと、おそらくその家庭にとっては高級食材である飼育していた鶏を私たちに食べさせてくれたこと、一緒に料理をしたこと、全てが忘れられない思い出です。損得を一切考えることなく、私たちに最高の環境を提供してくださったホストファミリー達と別れる際には私たち学生は皆号泣していました。温かい待遇を受け、現地の方々の心からの親切に感動しました。

最後になりますが、私は現在鹿児島大学の医学部医学科に所属しており、将来は医師として社会貢献したいと考えています。医学の勉強はやはり簡単なものではありませんが、大変な時や辛い時に自分の原点に戻ると、そこにはラオスでの体験が強く影響しているように感じています。JICA 海外協力隊のお二方が現地の方々の笑顔をつくってくれたこと、そして現地の方々と一緒に今自分ができる精一杯のことを行なっていたこと。その様子を実際に拝見させていただいて、私もいつか自分の目の前にいる人々を笑顔にしたいと感じました。そしてそれと同時に、現地の方々のように、心から善意を提供できる高い人間性も持った温かな人間でありたいと思います。

私たちの体験を支えてくださった、主催の鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会の皆様をはじめ、JICA 海外協力隊の方々、ホストファミリーの方々、一緒に事業に参加しお世話になったお兄さんお姉さん、そして快く送り出してくださった家族に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。大変貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。この経験に恥じぬ人間になれるよう、今後も精進してまいります。ありがとうございました。

## 〔派遣団員〕

實 亮太郎	星峯中学校
原田 愛子	甲南高等学校
山本 珠子	鹿児島高等学校
軀川 天	鹿屋高等学校
古里 孝志	鹿屋農業高等学校
上迫 華音	川辺高等学校
中村 明日香	川辺高等学校
二宮 萌音	加治木高等学校
峯下 将孝	国分高等学校
得永 美潤	神村学園中等部
藤崎 蘭	神村学園高等部
鎌田 実里	川辺高等学校
天神 果恋	川辺高等学校
坂口 未結	神村学園中等部
井ノ原 和	川内高等学校
向吉 瞭	楠隼中学校
16名	

## 〔同行者〕

古田 宣稔	青年海外協力隊県OB会会長
吉原 久美代	青年海外協力隊ルワンダOV(公衆衛生)
門野 真琴	青年海外協力隊ベトナムOV(病虫害)
酒井 恵	鹿児島県国際交流協会 交流推進員
藤崎 優祐	南日本新聞編集局報道部記者
末吉 弘孝	KYT鹿児島読売テレビ報道部記者

7/23	結団式 鹿児島中央駅発 博多駅着 福岡空港発 バンコク経由 ビエンチャン空港着 ホテル泊
7/24	JICAラオス事務所表敬 ポーン村へ移動 ホストファミリーと対面・入村式 ホームステイ
7/25	青年海外協力隊 伊藤珠希隊員 (PCインストラクター) 活動視察 @UXO LAO ホームステイ
7/26	青年海外協力隊宮林春佳隊員 (助産師) 活動視察 @トゥラコム郡病院 学校交流(ボンサワン小学校) ホームステイ
7/27	終日、ホストファミリーと過ごす バーシー・お別れ会 ホームステイ
7/28	ビエンチャンへ移動 ラオス伝統舞踊視察 ホテル泊
7/29	ビエンチャン市内視察 タートルアン・パトゥーサイ ワット・シーサケート ビエンチャン空港発 バンコク経由 機内泊
7/30	福岡空港着 鹿児島着(貸切バス) 解団式



## ラオスでの経験

### 得永美潤（第26回ラオス派遣）

鹿児島県青少年国際協力体験事業 30 周年おめでとうございます。私は中学 3 年生のときに第 26 回事業でラオスを訪問しました。現地では、青年海外協力隊の方々の活動視察や現地の方々との交流を通してラオスの文化に直接触れ、歴史を学びました。初めての海外訪問、途上国で、自分一人では得ることができないような貴重な経験をたくさんさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

当時の私は、初めてのホームステイで大変緊張しておりました。言葉がわからず上手く意思疎通ができない中でも私が寂しい思いをしないようにラオスの伝統的な歌や楽器による演奏をして楽しませてくれたり、会話帳を使ってラオス語で「果物が好きだ」と伝えると食べきれないほどの果物を買ってきてくれたりしてくれたポン村のホストファミリーの温かさは今でも忘れません。

ラオスでの経験で特に印象的だったのは、ある小さな村の診療所での経験です。その診療所では、限られた環境の中で村の方々のために医療に尽力される助産師の方のお話を伺いました。医師が常駐しておらず、ベット数や機材も限られており、診療を希望する患者さんの期待に応えきれないのが現状だと話してくださいました。それまで自分の将来についてあまり深く考えていませんでしたが、ラオスで困っている方々の現状を実際に目にして、健康に長生きできる地域のために貢献する医師になろうと決意しました。

現在は、医療が必要な地域で医療活動に従事する医師を目指して鹿児島大学で勉学に励んでいます。医学部での生活は体力的にも精神的にも大変なことが多いですが、ラオスでの経験を糧に辛いことも乗り越えられています。歴史ある体験事業に参加させていただいたことを改めて感謝しています。私の人生が変わったこの体験事業がずっと続いていき、鹿児島の多くの中高生が国際協力に興味を持つきっかけを得ることを願っています。



## 〔派遣団員〕

池亀 美羽	鹿児島純心女子高等学校
木下 耀太	鹿児島大学附属中学校
永谷 玲葉奈	鹿児島大学附属中学校
松山 和子	第一鹿屋中学校
丸山 健生	輝北中学校
栄村 茉里香	川辺高等学校
園田 玲音	川辺高等学校
板元 麗	龍桜高等学校
杉田 百花	国分高等学校
小宮 那々花	川辺高等学校
鮫島 舞雪	川辺高等学校
今村 心美	川辺高等学校
福田 正宗	鹿屋農業高等学校
今別府 幸芽	鹿児島高等学校
徳永 隼也	赤徳中学校

15名



## 〔同行者〕

弓場 秋信	県青年海外協力隊を支援する会事務局長
徳田 洋	鹿児島県国際交流協会総務企画課長
林 裕佳	青年海外協力隊スリランカOV(日本語教師)
上野 陽子	青年海外協力隊バヌアツOV(看護師)
緒方 隆	南日本新聞社編集局報道部記者
下山 倫	MBC南日本放送報道局報道部記者

- 7/25 結団式  
鹿児島中央駅発 博多駅着  
福岡空港発 香港経由 コロンボ空港着 **ホテル泊**
- 7/26 JICAスリランカ事務所  
ガンパハ県ウラボラ地区へ移動  
ホストファミリーと対面 **ホームステイ**
- 7/27 青年海外協力隊 山尾紗代隊員(動物学)活動視察  
@デヒワラ動物園  
学校交流(ヤタワカ小学校) **ホームステイ**
- 7/28 終日、ホストファミリーと過ごす **ホームステイ**
- 7/29 終日、ホストファミリーと過ごす  
お別れ会 **ホームステイ**
- 7/30 ケゴール県へ移動  
青年海外協力隊 長部千寿隊員(保健師)活動視察  
@デヒオウィタ保健所 **ホテル泊**
- 7/31 コロンボ視察  
ヒンスー教寺院, ジャヤワルダナ記念館他
- 8/1 コロンボ空港発 香港経由 福岡空港着 **機内泊**  
鹿児島着(貸切バス)  
解団式



## スリランカ研修から得た経験と5年後の今

福田 正宗（第27回スリランカ派遣）



スリランカ研修は私にとって今でも忘れられない人生の貴重な経験です。スリランカでの1週間は私の記憶に鮮明に残っています。

私が青年海外協力隊の活動視察へ応募したきっかけは、私の実家が鹿児島で茶業を営んでいたことにあります。スリランカは紅茶の輸出大国であり、世界的に有名な茶の産地です。日本茶と海外の茶の生産地の違いや、そこで働いている現地の農家さんの現状などに興味を持ち研修への参加を決意しました。

研修中は現地で青年海外協力隊として活動をされている、保健師さんや生物環境保全活動をする隊員さんの話を聞く機会を頂きました。また、ホームステイをしたウラボラ地区での交流としてクリケットや小学校での文化交流などたくさんの経験をさせて頂きました。

研修の中で特に印象深い経験は、ホストファミリーの好意でヌワラエリアという標高2000mに位置する高級茶の栽培地帯へ連れて行っていただいたことです。実際に茶畑を見ると、現実とは思えないほどの規模にとっても驚きました。山の傾斜のすべてに茶が植栽されており、農家さんが手摘みで茶葉の収穫を行っていました。茶畑に見入っている私に向かって手を振ってくれるなど、話は出来ませんでしたが楽しく作業をされている印象を持ちました。一方で私の住んでいた鹿児島県では機械を用いて茶の収穫を行っている為、作業の効率性や人員確保、安全性について課題を感じました。また、地元の小学校で行った文化交流では、急須で淹れた日本茶を提供しました。スリランカの方々は普段砂糖たっぷりの紅茶を愛飲しているため、苦味に驚いた表情が忘れられません。

スリランカでの経験を得て、私は農業への愛着が一層強まりました。農家さんのためにできることに対する思いが芽生え、大学では農学部に進学し、特に農業害虫に焦点を当てた研究を行いました。現在は農薬会社で働きながら、農家たちに貢献することを心に留めています。

スリランカのホストファミリーとは研修後も継続的なコミュニケーションを保ち、思い切って今年の3月に再び訪れました。再会の瞬間は質問の嵐であり、ホストブラザーは長身かつたくましく成長していました。数年ぶりの再会にも関わらず、温かく迎え入れてくれ、変わらぬ家族のような雰囲気ですて接してくれました。

鹿児島県青少年国際交流体験事業への参加は、私にとって大きな財産であると確信しています。新しい環境や異なる文化に触れることで、自らの価値観を見つめ直すことができました。

この経験から得た気づきを胸に、これからも農業分野に貢献していきます。

最後に、鹿児島県国際交流協会の吉村博幸様をはじめとする関係者に深く感謝申し上げます。このような素晴らしい経験を共有し、興味を抱く方々にも積極的に異文化交流への参加をお勧めしたいと思います。



## 〔派遣団員〕

六反田 基世	鹿児島純心女子高等学校
前薊 真鈴	鹿児島中央高等学校
岡田 綾香	鹿児島玉龍中学校
渡邊 望未	鹿屋高等学校
下山 千晴	川辺高等学校
田中 いぶき	神村学園高等部
田代 佳鈴	クラーク記念国際高等学校
鳥居 彩乃	舞鶴中学校
関田 伊織	加世田高等学校
萩原 華音	川辺高等学校
岩重 優奈	鹿児島中央高等学校
岩田 胡桃	串木野中学校
朝岡 里紗	与論高等学校
三浦 香苗	指宿高等学校
井上 柊哉	赤徳中学校

15名

## 〔同行者〕

寺園 直喜	鹿児島県国際交流協会 専務理事
丸野 里美	青年海外協力隊カンボジアOV(小学校教諭)
佐藤 貴之	青年海外協力隊カンボジアOV(野球)
吉原 久美代	青年海外協力隊ルワンダOV(公衆衛生)
山田 天真	南日本新聞社編集局文化生活部記者
高吉 友佳	KTS鹿児島テレビ放送報道部記者

- 7/21 結団式  
鹿児島空港発 ソウル経由 プノンペン空港着 ホテル泊
- 7/22 JICAカンボジア事務所表敬  
シェムリアップ州タトラウ村へ移動  
ホストファミリーと対面 ホームステイ
- 7/23 バンテアイミエンチェイ州シソボンへ移動  
青年海外協力隊 深町菜摘隊員(青少年活動)活動視察  
@オーオンバル小学校 ホームステイ
- 7/24 学校交流(サマキーミエンチェイ小学校(運動会視察))  
ホームステイ
- 7/25 シェムリアップ視察  
アンコールワットほか  
ホストファミリーと過ごす  
お別れ会 ホームステイ
- 7/26 シェムリアップ空港発 プノンペン空港着  
青年海外協力隊 井上大地隊員(体育)活動視察  
@ポントラベック中学校 ホテル泊
- 7/27 プノンペン視察  
トゥールスレン博物館ほか  
バザール視察  
プノンペン空港発 機内泊
- 7/28 ソウル経由 鹿児島空港着  
解団式



## 紛争と人道支援を考えるきっかけに

岡田 綾香（第28回カンボジア派遣）



はじめまして。岡田綾香です。第28回の青少年派遣事業に参加させていただきました。コロナ前の夏に、中学3年生でカンボジアに伺いました。派遣時は、青年海外協力隊のかたの活動を視察し、お話を伺いました。ある日には、小学校の運動会に参加し、競争の概念がない障害物競走や、突然始まる寸劇にギャップを感じました。また、村にホームステイさせていただき、地域の人の暮らしを知りました。

カンボジアという今まで縁のなかった土地に行ったことで、私の知らない世界がたくさんあり、人が生活しているということを実感しました。また今でも連絡を取り合うようなメンバーや人生の先輩方とお会いするなど、かけがえのない縁にも恵まれています。

一番印象に残っていることは、政府が作る教科書の中に50年前に自国で起きた紛争の話が記載できないと聞いたことです。同じ民族や親戚の中で争いあったため、意見が食い違い、公式な見解を述べることができません。

また、政府も他国の援助を借りながら運営しており、歴史を解明して反省することが主体的にできない状況にあります。現地で活動する青年海外協力隊の方のお話を聞きながら、紛争は終結後の地域に多くの課題を残してしまうことに衝撃を受けました。日本にいと、紛争が終結したり、長引いたりすれば報道されることは少なくなり、問題が解決したと錯覚してしまいます。紛争が長引くほどそこからの復興には長い時間がかかり、援助も少なくなると分かりました。

現在、石川県の金沢大学の国際学類に通っています。まだ研究室に配属されていませんが、今後は紛争を予防する方法やその後の復興方法を探る研究がしたいと考えています。また、世界各地から来た留学生と一緒に国際交流寮に住んでいます。異文化の違いに戸惑いながらも楽しく生活しています。

視察に参加した前後で、将来への目標が大きく変わりました。今までは地元で堅実な職に就き、一生を過ごすだろうと思っていました。

現在は人道支援の仕事に就き、武装解除や復興支援に関わりたいと考えています。本事業で学んだことを生かしつつ、新しいことを学び人の役に立てる人になりたいです。



## 忘れられないカンボジアでの経験

### 渡邊望未（第28回カンボジア派遣）

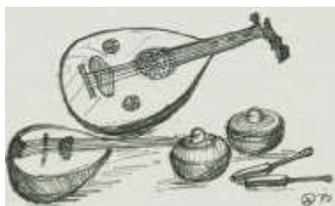
私は高校2年の時にこの事業に参加し、カンボジアに行きました。カンボジアでは、青年海外協力隊員の活動視察や JICA 事務所訪問、現地の小学校の運動会に参加、4日間のホームステイなど様々なことを経験しました。特に印象に残っているのはやはりホームステイです。初めは言語の違いから、コミュニケーションを取るのに苦戦しました。私のステイ先にはホストシスターもいたのですが、恥ずかしかったのか、知らない外国人がやってきて怖いのか、初めは全然目を合わせてくれなかったです。しかし、言葉が通じなくても指差し会話帳やジェスチャーを使って、自分の思いを伝えました。ホストシスターとも日本から持ってきた縄跳びや折り紙を一緒にしました。そうしていくうちにホストファミリーとの距離もどんどん縮まっていくように感じました。

お別れの日、ホストマザーが家に飾ってあった結婚式の写真を私に持たせました。立派な額縁に入ったカラー写真で、きっと大切なものだと思います。何と言っているのかはわからなかったのですが、「忘れないで」という気持ちが伝わりました。この経験から言葉がわからなくても気持ちは通じ合えるのだということを実感しました。ようやく海外渡航が緩和されるようになってきたので、写真を持ってまたホストファミリーに会いに行きたいと思っています。



私はホストファミリーを始め、カンボジアの行く先々で温かく歓迎されたことがとても嬉しかったです。この経験から今度は自分が日本に来る外国人をサポートする人になりたいと考えています。また、10月から大学の留学制度を利用してマレーシアに留学に行きます。

多文化共生について興味があるので、マレーシアで生活したり様々な人と関わったりする中で、考えを深めていきたいと思っています。自分の進路について考え始めた時期に貴重な経験をし、それが今でも影響を与えているように感じます。私がカンボジアに行くにあたり支えてくださった皆様に感謝をするとともに、今後も未長くこの事業が続くことをお祈りしております。



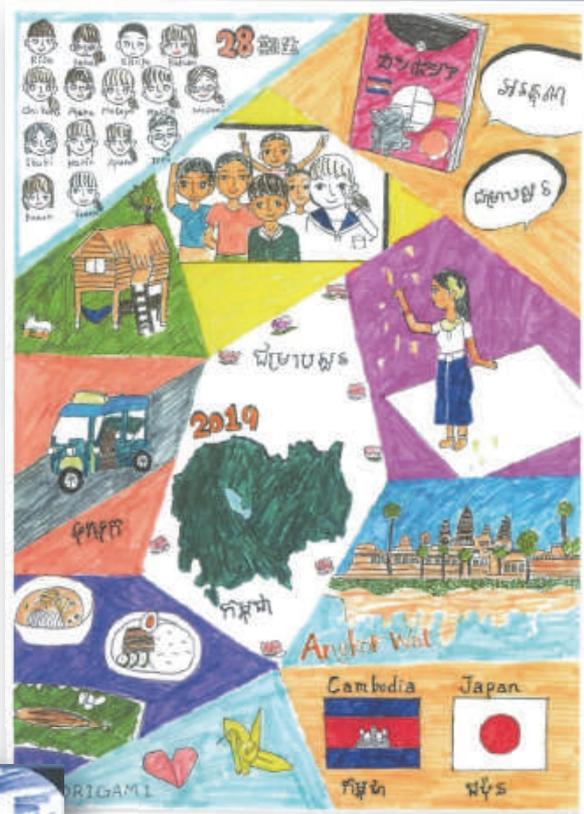
第29回

令和2年（～令和4年）

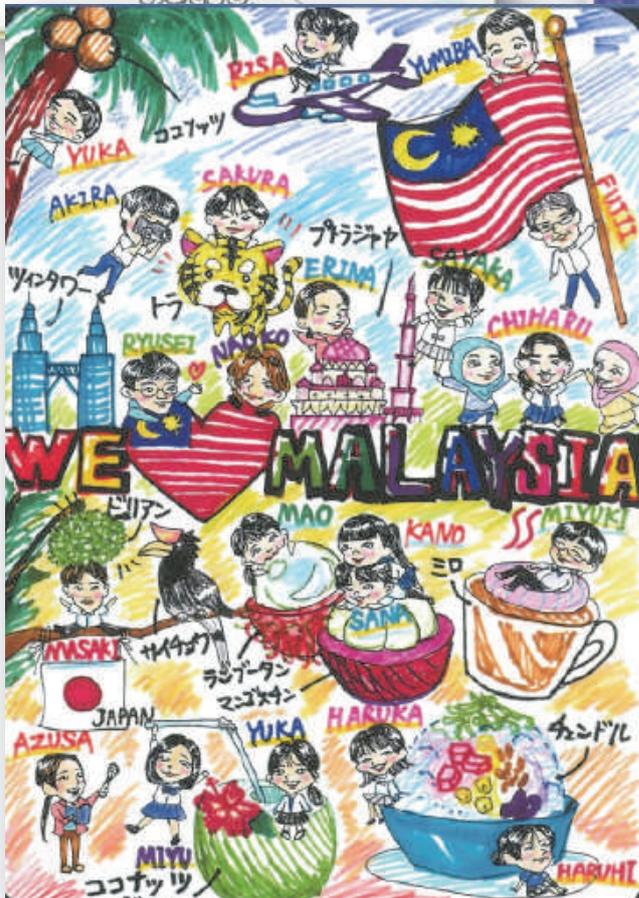
新型コロナウイルス感染症の  
影響により中止

# \*\*\* 報告書アート \*\*\* Part 4

第27回（平成30年度）スリランカ派遣団員 今別府幸芳さん



第28回（令和元年度）カンボジア派遣団員 岩田胡桃さん



第30回（令和5年度）マレーシア派遣団員 園田春陽さん

## 〔派遣団員〕

大迫 佳乃 甲東中学校  
 城山 千晴 鶴丸高等学校  
 坂之上 琉生 樟南高等学校  
 久保田 紗那 鹿屋高等学校  
 朝田 真央 鹿屋高等学校  
 前野 優夏 吹上高等学校  
 大渡 彩也華 加世田高等学校  
 森田 遥香 鹿児島中央高等学校  
 加世田 美雪 市来農芸高等学校  
 村上 由佳 陵南中学校  
 園田 春陽 鳳凰高等学校  
 桑原 さくら 立神中学校  
 奥田 優希 古仁屋中学校  
 井上 心結 樟南高等学校  
 徳永 理咲 鹿児島育英館高等学校

15名

## 〔同行者〕

弓場 秋信 県青年海外協力隊を支援する会事務局長  
 藤井 一彦 鹿児島県国際交流協会 総務企画課長  
 北田 尚子 青年海外協力隊マレーシアOV(養護)  
 五反田 えりな 青年海外協力隊スーダンOV(看護)  
 中野 あずさ 南日本新聞社編集局報道部記者  
 田上 晶 KKB鹿児島放送報道情報センター記者

7/23	結団式 鹿児島中央駅発 博多駅着 福岡空港発 バンコク経由 クアラルンプール空港着	ホテル泊
7/24	JICAマレーシア事務所訪問 ペラ州レンゴン地区へ移動 ホストファミリーと対面	ホームステイ
7/25	青年海外協力隊 田ノ畑祥一隊員 (障害児・者支援) 活動視察(クアラカンサー) 現地中学生との交流 @Sekolah Menengah Kebangsaan Sultan Azlan Shah	ホームステイ
7/26	青年海外協力隊 谷口亮隊員 (青少年活動) 活動視察(スンガイバタニ) 夕方:ホストファミリーと過ごす	ホームステイ
7/27	終日、ホストファミリーと過ごす お別れ会	ホームステイ
7/28	クアラルンプール視察	ホテル泊
7/29	クアラルンプール視察 クアラルンプール空港発 バンコク経由	機内泊
7/30	福岡空港着 鹿児島着(貸切バス) 解団式	



## 「幸せ」とはどこでうまれるのか

### 久保田紗那（第30回マレーシア派遣）



今回の派遣は東南アジアであるマレーシアのペラ州レンゴン地区の方に行きました。私はこの企画で初海外だったこともあり、ホームステイや現地の人との会話など不安と緊張でいっぱいでした。しかし、今回の体験で自分自身を見つめなおすことができ、とてもたくさんのことを学びました。

私がマレーシアで特にすごいと思ったのは「おもてなし」です。日本では決して体験することができない感動がありました。入村式からすごい歓迎してくださったり、青年海外協力隊の活動視察に行った時やホストファミリーと一日過ごした時、多くの場面で感動しました。自分はこの感動に何度も涙を流しました。

また、マレーシアの幼稚園や小学校、中学校など学校に行く機会もありたくさんの生徒と交流をしました。みんなが私たち日本人に対してすごく興味を持ってくれて手を振り返してくれたり、一緒に写真を撮ってくれたりしました。初対面であるにもかかわらず、英語で会話してくれたり、言葉が通じないときにはジェスチャーを使って会話をしたりと自分にとって初めての体験ばかりでした。

私のホストファミリーはとても親切で話しくれやすかったです。「マンディー」（日本語で言う水遊び）をしたとき、私は自分の替えの服を家に忘れてしまい、ホストマザーに笑いながら怒られました。その場にいた人たちはみんな爆笑してて、自分はやってしまったと思いながらも、今となってはとてもいい思い出になっています。

私たちがホームステイした村は発展しているとはいえ場所でした。でもその村の人々はみんなが優しく面白くてホストファミリーは私のことを本当の家族として接してくれました。また、レンゴン地区の人たちはみんな仲良くて村全体がとても明るかったです。私は「幸せ」とは暮らす場所は全く関係ないということ学びました。都市部に比べて大変な事があるかもしれない、でもその近所の人たちと協力して暮らしていくうちに仲良くなる、逆に地方部でしかできないこともあるんだなと思いました。「幸せ」と思えることが本当の「幸せ」なのではないかなと思います。

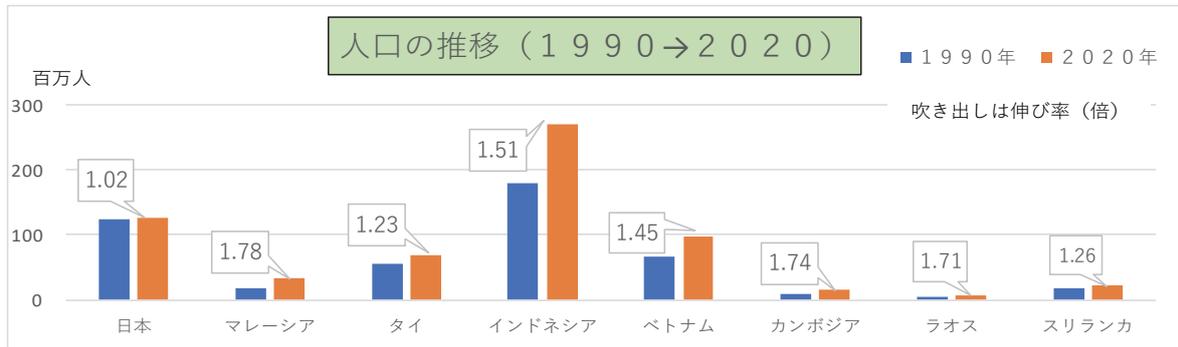
約一週間というほんとに短い期間ではありましたが、ほんとに濃い一週間だったと思います。帰るときは日本に帰りたくないと思っていたことを今でも覚えています。また今回の派遣をともにしたメンバーにも恵まれていてほんとに楽しかったです！

マレーシアで交流をしたホストファミリーやレンゴン地区の人、中高生とは今も連絡を取り合っています。「世界に友達がいる。」自分の一つの目標がかないました。私は将来国際関係の仕事につくために今回の学びを活かして英語の勉強や世界に目を向けながら日々すごしています。世界で苦しんでいる人々に「幸せ」や「笑顔」を届けたいです。

今回この企画に参加させていただきありがとうございました！ほんとに貴重な体験をすることができました。この経験と感動をたくさんの人に味わってほしいです！

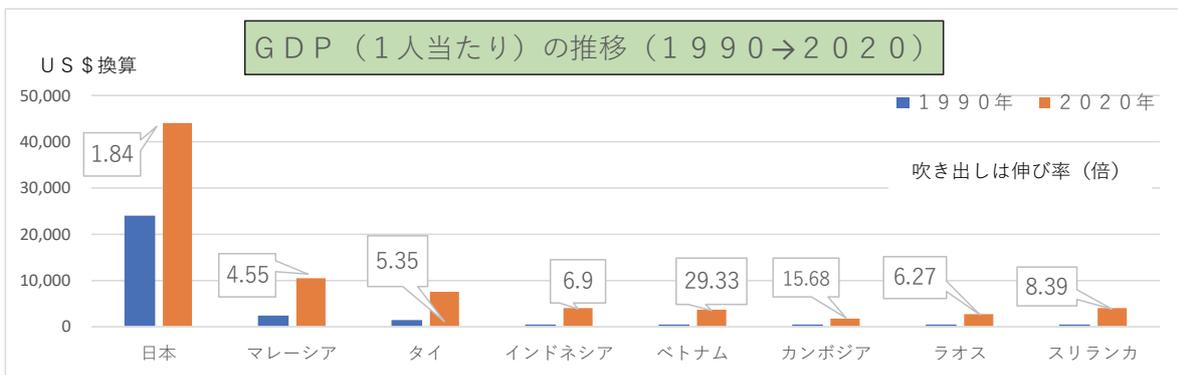
Terima kasih!!（ありがとう!!）

# アジア30年の変化



(単位：百万人)

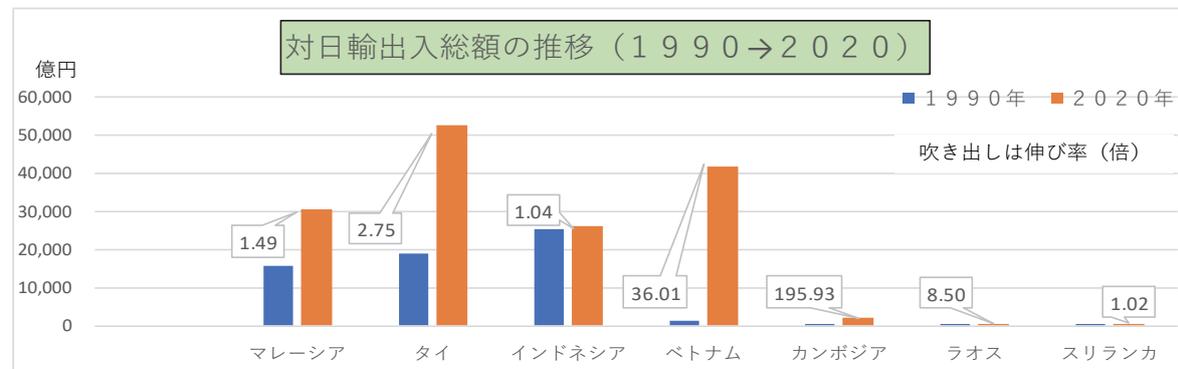
	日本	マレーシア	タイ	インドネシア	ベトナム	カンボジア	ラオス	スリランカ
1990年	123.44	18.27	56.56	179.38	67.51	9.01	4.29	17.33
2020年	125.85	32.58	69.80	270.20	97.58	15.68	7.32	21.92
伸び率(倍)	1.02	1.78	1.23	1.51	1.45	1.74	1.71	1.26



1人当たりGDP

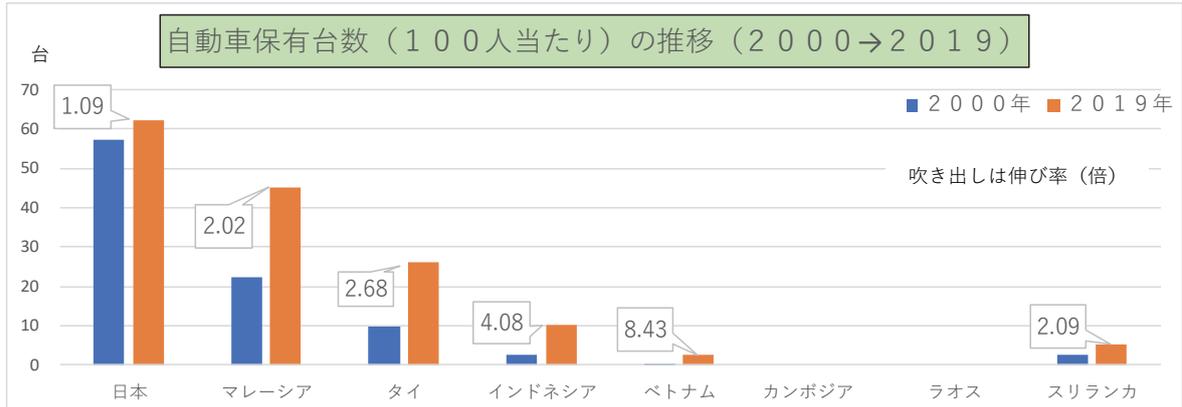
(単位：US\$)

	日本	マレーシア	タイ	インドネシア	ベトナム	カンボジア	ラオス	スリランカ
1990年	23,965	2,283	1,400	561	121	99	406	460
2020年	44,040	10,397	7,493	3,908	3,549	1,552	2,546	3,858
伸び率(倍)	1.84	4.55	5.35	6.97	29.33	15.68	6.27	8.39



(単位：億円)

	マレーシア	タイ	インドネシア	ベトナム	カンボジア	ラオス	スリランカ
1990年	15,726	19,147	25,447	1,161	11	35	646
2020年	30,451	52,626	26,374	41,810	2,249	295	658
伸び率(倍)	1.94	2.75	1.04	36.01	195.93	8.50	1.02



(単位：台)

	日本	マレーシア	タイ	インドネシア	ベトナム	カンボジア	ラオス	スリランカ
2000年	57.3	22.3	9.7	2.5	0.3			2.5
2019年	62.3	45.0	26.1	10.3	2.4			5.2
伸び率(倍)	1.09	2.02	2.68	4.08	8.43	NA	NA	2.09



(単位：件)

	日本	マレーシア	タイ	インドネシア	ベトナム	カンボジア	ラオス	スリランカ
2000年	52.4	22.1	4.9	1.7	1.0	1.1		2.3
2018年	141.4	134.5	180.2	119.3	147.2	119.5		142.7
伸び率(倍)	2.70	6.09	36.78	70.18	147.20	108.64	NA	62.04



\*各表のデータは、総務省統計局、ジェトロ日本貿易振興機構、アジア経済研究所、世界経済のネタ帳HPの数値をもとに調製した。

# 鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会

鹿児島県青年海外協力隊を支援する会

青年海外協力隊鹿児島県OB会

公益財団法人鹿児島県国際交流協会



＝編集・発行＝

鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会

892-0816 鹿児島市山下町14-50  
カクイックス交流センター  
(かごしま県民交流センター)

公益財団法人鹿児島県国際交流協会内  
TEL 099-221-6620  
<https://www.kiaweb.or.jp>  
2024年4月